

**2022 年度日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック第 1 回議員総会
議事録 (案)**

開催日時	2022 年 6 月 26 日 (日) 10:00~11:00
開催場所	ZOOM 会議
議事進行	大西弘高 支部長
議長	井口清太郎 先生
記録	関東甲信越ブロック支部事務局 (東京大学大学院医学系研究科 医学教育センター/ 医学教育国際協力学部門内)
内 容	
<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大西支部長より、本日時点の関東甲信越ブロック支部学会の投票権を持つ参加者 308 名 (学会代議員数 305 名、その他役員 3 名) の内、直接の出席者 54 名、提出された委任状が 92 通であったことが報告され、関東甲信越ブロック支部規約「第 24 条 議員総会定足数」の開催の条件 (代議員総数の 3 分の 1 以上) を満たしており、開会が宣言された。 <p>2. 支部長挨拶 (大西ブロック支部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 都県連絡委員会にて支部長の互選プロセスが不十分ではないかとの意見が出されたため、改めて本日、支部長の選任という議案で取り上げる。 • 関東甲信越ブロック支部と都県連絡委員会の関係、ブロック支部内の理事選挙結果及び都県連絡委員会の体制について、スライド 4、5、6 を参照しつつ説明。 • 学会本体に看護師・薬剤師の部会ができることからブロック支部でも幹事のポジションに看護師・薬剤師を置くことを検討している。 • 次期にについての方針 (スライド 7) に関し以下の言及があった。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 支部長選任の時期・手順を明確化する。 ➢ 監事は議員から互選することが都県連絡委員会で議論され、本会議後、方針を決めていく。 ➢ 都県連絡委員会の委員長は、ブロック支部と都県連絡委員会を繋ぐ重要な立場なので、次の議員総会までに選任していく。 <p>3. 議長選出</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新潟大学の井口清太郎先生が立候補により議長に選出された。 <p>4. 協議事項</p> <p>議題 1 : 2022~23 年度ブロック支部長の選任</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大西支部長より下記の通り説明。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 支部長は、規約では学会本体の理事からの互選ということになっている。自身が所属する東京都支部の 6 名の理事と他理事の計 7 名に確認をとり、続投でいかがかとい 	

う議論があった。また現在の監事2名からの賛意と他の先生も非公式に確認を行った。しかしながら都県連絡委員会で、理事全員に確認した方が良いという意見も出たため委員会後、意見をお聞きしていなかった先生に確認した。結果として残り全員から信任の回答あり。本日は、理事の互選には問題ないということでこの場にいる。本会議で都県連絡委員の先生方から意見ありましたらこの場で受けて議論したい。

- ▶ 質問：どのような疑義だったのか？
- ▶ 回答：プロセスについての確認であった。

- 大西現支部長の続投で承認された。

議題2：直接補助活動の予算措置（資料1）

- 大西支部長より資料1およびスライド12に基づいて、ブロック支部会計の収入、支出に関する状況報告が行われた。
- 特に質疑なく、承認された。

議題3：2022年度特別支援事業について（資料2）

- 大西支部長より、資料2に基づいて藤沼康樹先生による「首都圏家庭医療教育者の会」の紹介があり、藤沼先生から計画の説明がなされた。
- 藤沼先生：東京都の開業医、病院医、特に外来・訪問診療について日常的に学べる場が欲しいとの要望があり今回申し込んだ。大都市圏でどのように教えるかを考えていくかを実行委員と協議している。まだ資金の関係もあり、リモート形式での開催となるが、いずれ対面での実施も考えている。第1回は、8月21日に診療ビデオの教育に特化して開催したい。
 - ▶ コメント：とても大事な取り組みと思う。事業内容を見ると首都圏に限ったものではなく、大阪圏、名古屋圏など都市部では同じ課題を抱えているため、学会のワーキンググループという位置づけにし、予算は（ブロック支部が）つけるという形にしてはどうか。
- それ以上の議論はなく、承認された。

議題4：ブロック支部規約変更について（資料3）

- 大西支部長より、規約の役員等の項の改訂について資料3、スライド14を下に説明がなされた。医師のみならず多職種に活発に活動して欲しいという趣旨で、第11条及び12条から専攻医・専門医の文言を削除したいとの説明があった。
- 特に質疑なく、承認された。

議題5：2022年度予算について（資料4）

- 大西支部長より資料4、スライド16に基づいて説明があった。通信運搬費は、現在契約しているZoomプロの最大接続人数が100人なので、参加者が多い場合はその月だけ人数を増やすような契約をすることを想定。

- 議長より、コメントがあった。事務職運営の事務職員への支払いは、教室の事務の方をお願いすることになると思うが、本来の仕事内容とは違うことを別でお願いすることになるので当然の流れと思う。
- 特に質疑なく、承認された。

議題 6 : その他

- 冒頭、支部長挨拶で言及のあった監事の選任について、都県連絡委員会では学会本体の理事・議員による互選で決定すると学会の影響力が大きくなってしまわないかと危惧する意見があったため立候補が募られ、現監事の西村真紀先生が続投の意向を示された。もう 1 名は継続審議となった。

5. 報告事項

議題 1 : ブロック支部ホームページ

- 支部長より新しく立ち上がったホームページの紹介があった。

議題 2 : 2021 年度第 10 回ブロック支部地方会

- 長野県支部長鈴木先生より次の報告がなされた。
 - ◇ 昨年 10 月 30, 31 日に開催。コロナ禍のため完全 Web 会議で、参加者数は有料参加者約 380 名、学生などの無料参加者約 60 名、合計約 440 人。
 - ◇ HP はまだ閲覧可能で抄録集も掲載されている。
 - ◇ 内容は特別講演 2 題、教育講演 1 題、特別企画・コロナ関係 1 題、シンポジウム 5 題、ワークショップ 4 題、イブニングセミナー 1 題、一般演題 16 題、キャリアカフェ 3 ブース。— 若干余剰金が出たので記録集を発行することができ、参加者に順次発送の予定。会計はブロック支部事務局に報告済。

議題 3 : 2022 年度新専攻医オリエンテーション

- 茨城県勝田病院の宮澤麻子先生より次の報告がなされた。
 - ◇ 毎年度初頭に開催し、今年は 4 月 23 日 (土) に開催した。Web 開催で参加者 65 名、うち新専攻医は 30 名。
 - ◇ 今年度から専攻医部会との連携をさらに強化し、お役立ちコンテンツを作成いただいた。横谷先生の研修制度説明を学会として全国共通の動画コンテンツにして頂いた。
 - ◇ 2021 年から家庭医療のコアレクチャーの部分年 4 回の専攻医継続支援企画として Web 研修を行っている。いずれも off the job training 単位、生涯教育単位も取れるので是非ご参加頂きたい。

議題 4 : 2022 年度第 11 回ブロック支部地方会進捗

- 東京都支部守島副支部長より次の報告がなされた。

- ◇ 12月4日（日）にWeb開催で4トラックを検討中。あゆみコーポレーションと交渉を進めており、HP作成等について協議している。HPは7月上旬には開設予定。
- ◇ 費用は、317万3000円の見積が提示されており、参加人数500名で一人当たり、事前登録で6000～8000円を想定している。
- ◇ 企画案として研修医教育、診療所病院・大学の先生から案を募っている。教育講演、ワークショップ、薬剤師からの企画等の他、キャリアカフェミニ等も検討している。
- ◇ 大西支部長より参加費は毎年のを踏襲していただけるとありがたいとのコメントあり。

議題5：2023年度第12回ブロック支部地方会について

- 地方会は、各都県支部の持ち回りという形式をとってきたが現在、開催都県が未定。未実施県は2か所（栃木、山梨）であるが、改めてブロック支部から各都県支部に意向を確認するとの言及が支部長よりなされた。

議題6：各都県支部からの報告

- 茨城県支部・横谷先生：保健・医療・福祉に関する勉強会を年6回実施。昨年度もオンラインで実施した。成果として県外から多数の参加者があったが、県内の若手医師の参加をどのように促していくかが課題となっている。
- 東京都支部・竹村先生：規約作成、資金や実行の仕組み作りを行ってきた。自分自身として交代する予定。守島先生から発表あった通り地方会準備を推し進めている。東京都のプライマリ・ケア事業の発展を期待している。
- 栃木県支部・村井先生：矢吹先生、寺門先生に引き続いて新県支部長に就任した。これまでは栃木プライマリ研究会が県支部を兼ねていたが、会員のメンバーを中心とした県支部を新たに立ち上げた。これまで活動の中心であった栃木プライマリ研究会はランチの一つとなり、資金は全額、県支部に移行させていただいた。栃木県ではまだ地方会を開催していないということであるが、今後、早急に検討していきたい。組織が改編したこともあり、学会の先生方に県支部に参加して頂きたい。関東甲信越支部ブロックからもアナウンスしていただけると有難い。
- 群馬県支部・高柳先生：昨年度同様、総会は書面開催となったが、例年、総会と同時に開催する講演会については3月12日山梨市立牧岡病院の古屋聡先生を招いて「パンデミックという災害にどう向き合うのか、多職種連携を重視する中小病院の立場から」をテーマに講演頂いた。コロナ渦は生活を決定的に阻害するという点でまさに災害であるということ、災害時も平時も社会的弱者を守るために多職種連携や地域包括ケアが重要であるというお話を頂いた。全国から120名の参加者を得て、盛況であった。今後、若手からベテランまでどのように連携して通年の活動をしていくかということが課題となっている。
- 新潟県支部・井口先生：8月28日（日）に新潟大学総合診療学の上村顕也先生を会長とし第14回新潟プライマリケア研究会を開催する。プライマリ・ケア連合学会専門医の今

西先生によるポートフォリオの話等をしてもらい学生も参加できるような会をハイブリッド形式で開催する予定。

- 埼玉県支部・石田先生：毎年、埼玉プライマリ研究会を開催しており、今年は11月18日に大宮ソニックで開催の予定だが、感染状況も踏まえながらオンライン開催も検討している。特別講演は、在宅医療でどのようにICTを使っていくかというテーマで武藤真祐先生に講演頂く。また、メディカルケア・ステーションを使って多職種連携を行っている埼玉県北部の実例紹介、在宅医療におけるハラスメントについての話、SPARTという若手医師の勉強会ネットワークの取り組みの話をする予定。
- 長野県支部・鈴木先生：先ほど報告した通り地方会を開催した。記録集は、順次発送予定。県の理事会を半年に1度オンラインで行っていたが、総会は開催できない状態だった。今秋にはWeb開催または感染状況によっては対面で総会・講演会を開催することを模索している。
- 神奈川県支部、千葉県支部、山梨県支部からは特に報告なし。

議題7：その他

- 特になし

以上を持って、2022年度第1回の議員総会は終了となった。